

日本共産党

# 戦争法案3つの大問題

安倍首相は「戦争法案」を「国民の命と平和な暮らしを守る」ためだといいますが、  
とんでもありません。法案はすべて自衛隊の役割を拡大して、海外派兵や米軍支援に  
あてるためのものです。憲法9条を全面破壊する「3つの大問題」があります。

## 1 「戦地」まで行って軍事支援 「必ず戦死者が出る」

米国が世界のどこであれ、アフガン・イラク戦争のような戦争を始めたら、自衛隊がこれまでに禁じられてきた「戦闘地域」にまで行って軍事支援をすることになります。  
そうすれば、相手から攻撃され、戦闘になる――「殺し殺される」危険が飛躍的に高まります。  
「必ず戦死者が出る」(柳沢協二・元内閣官房副長官補)「これは避けられません。」



米海兵隊との共同演習で射撃訓練をする陸上自衛隊員

## 2 戦乱が続く地域で治安活動 アフガンで3500人戦死

PKO(国連平和維持活動)法を改定し、形式上「信戦同意」があっても戦乱が続いている所に派兵します。武器の使用も自己防衛だけでなく、任務遂行のためでも許され、武器を使った「治安維持活動」を可能にします。  
これによってアフガンで3500人も死者を出した国際治安支援部隊(ISAF)のような活動に道を開くことになります。首相もこれを認めました。

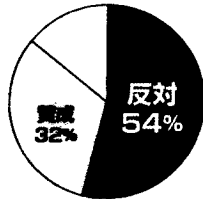
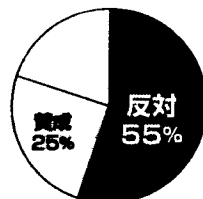
## 3 集団的自衛権で武力行使 先制攻撃の戦争にも参加

日本への武力攻撃がなくても、集団的自衛権を発動し、自衛隊が海外での武力行使に乗り出すこととなります。  
ベトナム戦争のようなアメリカの無法な先制攻撃であっても、「個別具体的に、総合的に政府が判断する」(安倍首相)と

発動を否定しません。そうすれば「集団的自衛」でなく「集団的侵略」。日本が侵略国の仲間入りすることは許せません。

## 世論は反対が多数

戦争法案の  
今国会成立に



「日経」5月25日付

「毎日」25日付

「ポツダム宣言の(間違った戦争という)認識を認めないのか」。党首討論で共産党の志位委員長が安倍首相にたじたのに対し、首相は「ポツダム宣言」を「つまびらかに読んでおらず、承知して戦争の善悪の区別つかない首相に戦争法案出す資格ない」と答弁。  
日本の戦争を「世界征服」のための戦争と認定した同宣言は、戦後政治体制の原点です。  
日本の戦争の善悪の判断ができない首相に、法案を出す資格はありません。

# いつでも、どこでも、米のどんな戦争にも参加 安倍政権の暴走、「戦争する国づくり」ストップ